わらびじゅく
笑楽日塾だより

２０２４年8月号
２０２４．８．３１
第７８号
発行：笑楽日塾

笑楽日塾はＳＤＧｓを
応援します。

荒井塾長あいさつ

荒井貞夫

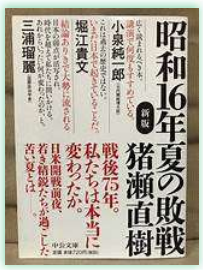
【戦後 79 年　日本はなぜ戦争に負けたのか】

30 代半ばに初めてアメリカへ出張する機会があった。アラスカのアンカレッジで給油してアメリカ大陸へ。西部から広大なアメリカ大陸を眺めながらリッキー山脈を越えてニューヨークのラガーディア空港に降りた。その時感じたのは「こんなに大きな国とどうして戦争したのか」という疑問だった。

８月２日 NHK 朝ドラ「虎に翼」で判事の星幸一が『総力戦研究所』で働いていたことが説明されていた。

私は近衛内閣が設置した『総力戦研究所』も、陸軍が設置した『陸軍省戦争経済研究班（通称「秋丸機関）』の事も知らなかった。後者については猪瀬直樹さんの著書『昭和16年夏の敗戦』に詳述されているそうだ。

最近のネット情報から**『総力戦研究所』**と陸軍が設置した**『陸軍省戦争経済研究班（通称「秋丸機関）』**のことを紹介します。



83 年前の夏には、政府や軍の機関が「対米開戦は不可」という予想がいくつも出されていた。にもかかわらずなぜ日本は破滅への道を選んだのか。

当代一流の経済学者を集め、主計中佐の秋丸次朗（1898～1992）が率いた『陸軍省戦争経済研究班（通称「秋丸機関）」が、昭和16年7月、陸軍上層部に「日米の国力差は20対1」と報告していた。もうひとつ、政府直轄の調査研究機関『総力戦研究所』の「模擬内閣」も昭和16年の夏、「日本必敗」の予測を出している。

NHK 連続テレビ小説「虎に翼」の第 90 話が８月２日に放送され、星航一（岡田将生）が「僕、『総力戦研究所』にいたんです」と告白。

日本初の女性弁護士で、のちに裁判官になった三淵嘉子さんの人生をもとにした物語を描く朝ドラ「虎に翼」を私と女房は毎朝観ています。

女優の伊藤沙莉が主人公の佐田寅子を演じている。この日は第 18 週「七人の子は生すとも女に心許すな？」(第 86～90 話)の最終日で、新潟地裁で判事を務める航一が戦時中に経験した「秘密」を吐露。彼は、日米開戦を想定したシミュレーションをする総理大臣直轄の機関『総力戦研究所』のメンバーであったことを打ち明けた。

首をかしげる寅子たちの前で、航一は「昭和 15 年に設置された内閣総理大臣直轄の研究所です。官界や民間組織から 30 代の優秀な人材が集められました。研究所の目的は総力戦の本質を明らかにし、その運営の中枢人物たるに必要な能力を習得させること。そして、大戦に向けて軍を、国民を指揮監督する人材を育成すること。僕たち研究生は、模擬内閣を発足させ机上演習を行いました」と説明。

仲間とともに何度も机上演習を行った結果、敗戦は確実だと政府中枢に報告したが、その研究結果は無視されて開戦に至り、やがて日本は敗戦した。航一は、そこで声をあげずに真実から目を背けたことへの後悔を抱えてずっと苦しんでいた。『総力戦研究所』は実在した機関で、三淵さんの 2 人目の夫、乾太郎さんが戦時中に抜擢され、その模擬内閣で司法大臣を担当した。

この日の放送では、航一たちが、東條英機のような人物に提言する回想シーンもあった。航一は「万に一つも勝利はなし。日米開戦は避けるべきと模擬内閣として提言いたします。戦争のあとまでお考えでしょうか？」と主張したが、その人物は「これは机上演習であって、実際の戦争とは全く異なる。研究に関する諸君らの努力は認めるが、この演習の結果は政府の方針とは何らの関係もない」と述べたという。

【総力研究所】
否応無しに総力戦に臨みつつあった日本には、早急に状況に対応しうる人材を育成する必要があり、急遽『総力戦研究所」』が開設された。

研究生として集められたのは 36 名の「官民各層から抜擢された有為なる青年」。その所属は、大蔵省、商工省といった省庁のエリート官僚、陸軍省の大尉、海軍省の少佐、そして日本製鐵、日本郵船、日銀の職員、同盟通信のジャーナリストなど。その中に、東京地方裁判所などを歴任していた初代最高裁長官三淵忠彦の長男・乾太郎も含まれた。条件として挙げられたのは、「人格高潔、智能優秀、身体強健にして将来各方面の首脳者たるべき素質を有するもの」、そして年齢については「なるべく年令 35 歳位迄のもの」。

作家で参議院議員の猪瀬直樹さんの著書『昭和16年夏の敗戦』によると、この研究所は各省庁や陸海軍、民間から選抜された若手エリートを集め、戦争を主導する人材を育てるために設立され、昭和16年4月に1期生35人(官僚27人、民間8人)が入所した。研究生の中には戦後、日本銀行総裁や省庁の事務次官を務めた人もいる。7月からは研究生が首相や閣僚役になる模擬内閣がつくられた。総力戦を学習するための机上演習ではあったが、閣僚役となった研究生は出身省庁や企業から極秘データを取り寄せ、省庁間の縦割りを排除して今の国力で米英と戦争したらどうなるか、総力戦の展開を予測した。

『総力戦研究所』が設立された日、東京では大規模な防空演習が行われていた（昭和15年10月2日夕刊）原爆投下を除き、この予想はほぼ的中した。

この結論は昭和 16 年8月27、28日に首相官邸で首相の近衛文麿（1891～1945）や、陸相の東條英機（1884～1948）ら政府・軍部首脳に報告された。『昭和16年夏の敗戦』に拠れば、この報告を聞いた東條の感想は、当時の指導部を覆う「空気」を表している。

「諸君の研究の労を多とするが、これはあくまでも机上の演習でありまして、実際の戦争というものは、君たちの考えているようなものではないのであります。日露戦争でわが大日本帝国は、勝てるとは思わなかった。しかし、勝ったのであります。（中略）戦というものは、計画通りにいかない。意外裡なことが勝利につながっていく。したがって、君たちの考えていることは、机上の空論とはいわないとしても、あくまでも、その意外裡の要素というものをば考慮したものではないのであります。なお、この机上演習の経過を、諸君は軽はずみに口外してはならぬということでありますッ」

今年も 8 月 6 日、9 日、15 日が巡ってきました。負けると分かっていた戦争を何故始めてしまったのか。

【8 月 2 日の朝日新聞記事】
「日本は勝敗に拘わらず経済力にそぐわぬ戦争を繰り返してきた。朝鮮出兵直後の 1600 年、中国の GDP は日本の約10 倍。日清戦争直前の1890 年は同じく約 5 倍、日露戦争直前の 1900 年のロシアは日本の約 2.5 倍だった。
OECD によると、現在の中国の GDP は日本の 5.3 倍で、2050 年に 7.4 倍に広がる見通しだ。太平洋戦争開戦時の日米格差 4.9 倍を上回る。
外交力を駆使しなくては、防衛力だけでは安全保障は成り立たない」

最後に戦争に負けたが、鉄道が生き残った。そして日本は復興した事を記しておきたい。
昭和 20 年 8 月 15 日、終戦（敗戦）のその日も汽車も貨車も走っていた。戦争に負けた虚脱感の中でも鉄道が動いていたというのは鉄道従事者の仕事への熱い使命感があったからです。そして鉄道が機能していたことが、日本が戦後復興する原動力となったのです。アノ戦争で多くの人が死んだ。敵も味方も、兵士も民間人も。誰のせいか。

完

2024 年8月8日　笑楽日塾 塾会 報告

期日 2024 年8月 8 日(木) 17 時 30 分～19 時 30 分
会場　蕨市内 秘密の場所
出席者 八木、吉田、内田、星、高木、南、清藤、荒井 8 名
欠席者 新井斉、先崎、、菊地

荒井から：
　八木さんから特製ウイスキーBallantine’s を戴きました。ブロックアイスと炭酸も用意しました。暑気払いを大いに楽しんでください。私は Chivas Regal も好きです。海外出張すると会社の同僚へシーバスリーガルを土産にして、プロジェクトが一段落した時に開けてみんなで楽しんだことを思い出します。

　8月には戦争に絡んで思い出すことが沢山あります。戦後生まれの人も戦争の影響を受けたり、悲惨な戦争を聞いたりした事があるでしょう。色々語ってください。

　私の研究では、敗戦目前の空襲があった時期に、蕨にも爆弾や焼夷弾がたくさん落ちました。それは昭和 20 年 4 月 12 日と 5 月 13 日、25 日に爆撃を受けました。
蕨は埼玉県下で空襲の被害は熊谷に次いで 2 番目に大きかったのです。
法華田に爆弾が、北町 2 丁目から中央 2 丁目にかけて焼夷弾が落とされて、40 人ぐらいが死亡しました。
　しかし、蕨の隣にあった日本車両の蕨工場は無事でした。そこで捕虜が働いていたからです。太平洋戦争の捕虜の記録によると、1945 年 7 月東京捕虜収容所第 11 分所として川口市大字芝に開設。使役企業は日本車輌蕨工場。終戦時収容人員 100 人(米 73 人、伊 27 人)。収容中の死者なし

＊第 2 次大戦中、約 36,000 人の連合軍捕虜が日本に連行され、国内 130 か所の捕虜収容所において過酷な労働を強いられました。そして飢えや病、事故や虐待、さらに友軍の空襲や原爆などによって、終戦までに約 3,500 名が死亡しました。

【日本は何故負けたのか：戦争前のシュミレーションがあった。結果は日本必敗】
　8 月 2 日 NHK 朝ドラ「虎に翼」で判事の星幸一が『総力戦研究所』で働いていたことが説明されていた。
　私は近衛内閣が設置した『総力戦研究所』のことも、陸軍が設置した『陸軍省戦争経済研究班(通称「秋丸機関)」の事も知らなかった。

83 年前の夏には、政府や軍の機関が「対米開戦は不可」という予想をいくつも出していた。にもかかわらず、なぜ日本は破滅への道を選んだのか。

当代一流の経済学者を集め、主計中佐の秋丸次朗（1898～1992）が率いた『陸軍省戦争経済研究班（通称「秋丸機関）」が、昭和16年7月、陸軍上層部に「日米の国力差は20対1」と報告していた。もうひとつ、政府直轄の調査研究機関『総力戦研究所』の「模擬内閣」も昭和16年の夏、「日本必敗」の予測を出している。

それを一方的に無視したのが陸軍大臣/東條英機だった。

明日、8月9日は長崎の原爆記念日です。戦争に絡んだお話をお願いします。

【塾生の記憶】

TT さんから：

夫が戦死し夫の弟と結婚する「逆縁婚」というのがあった。それで不幸な暮らしをしていた人がいた。家族を養うために仕方なかったのだろう。戦後はオンリーとかパンパンとかいう言葉があって、生きるため、家族を養うため、食うために仕方なく生きていた人たちがいた。

MY さんから：

戦後っ子の私は戦争を知りませんが名古屋にいたお婆さんの話では空が B29 で真っ暗になり、大量爆弾投下で大変だったそうです。
親父も戦争が終わりマレーシアからボロ船に乗って帰国。一緒にいた駆逐艦は撃沈されたそうです。ボロ船だったから助かったのか？
親父がいなければ現在の私はいませんね。
いつも苦しみ、悲しむのは平民です。戦争は愚かな事。国のトップや上層部はいつの時代も戦争を繰り返し、無益とは考えないのでしょう。

KY さんから：

みんな貧しかった。しかし、格差は感じなかった。北の大地では食うものはあったのでひもじさは感じなかった。父は戦地には行かなかったが、釧路と帯広で上官に付いていた。休みの日に父が帰ってくると食べたこともない甘いものを持ってきた。
戦争の傷跡は、昔、サイパンへ行ったときに現地のガイドがとつとつとしゃべるが、その中で「本土の人は何故助けに来なかったのか」と非難するような話があった。

HH さんから：

新潟の田舎では田んぼや畑がない人は困っていた。本家の父がビルマで戦った。
「ビルマの竪琴」は辛い話だった。

SA さんから：

松田道雄の「ビルマの竪琴」の水島上等兵が仲間が帰国する船を見送る場面を覚えている。吉田さんが10年前にバンコクで JICA の仕事をされていた。知り合い3家族6人で吉田さんを訪ねた。映画「戦場に掛ける橋」に出てくる鉄道橋を見に行った。英国、豪州など多くの捕虜が犠牲になった難工事だった。橋を渡る汽車を見て、平和の尊さを感じた旅だった。

SU さんから：

父は鉄道員で、大宮機関区で働いていて戦争には行かなかった。身内に戦争に行った人がいた。その人は中国で悲惨な戦争体験者で人を殺した話をしていた。その家では帰国してからも苦労が絶えなかったようだった。戦争さえなければ幸せな暮らしが出来たろうに。

SA さんから：

昭和33年に蕨工場へ入った。優秀な設計者がいた。その人は予科練から満州へ派遣された。小便が凍る冬の寒さやトイレの辛さなどを話してくれた。私が入社した時は31歳だった。普段はおとなしい人が酒が入ると別人になってしまった。係で一泊2日の旅行で宴会をやると、終わり頃に「ちゃぶ台返し」をして暴れていた。戦争の辛い思い出と楽しい宴会が真逆になって、鬱憤を晴らしていたのかもしれない。

TT さんから：

戦後、ヒロポン（麻薬）が流行っていた。それを密売者から買うために着物を持ち出されて困っていた家があった。

TS さんから：

青森・大湊に住んでいた。校庭に防空壕があった。空襲警戒警報のサイレンで、一斉に防空壕へ駆け込んだ。グラマン戦闘機が空気を切り裂くような、雷鳴とも違う音だった。いつでもにげられるように教室の窓を開けていた。
思い出すのは食糧難だった事だ。イカの缶詰が配給されたが、不味くて食べられなかった。竹藪へ味噌を持って行ってタケノコを掘って食べた。
それが幸いして、今は何でも食べられる。
食べ物には苦労した
父は海軍にいた。引上げ後役場にいた。
子どもの頃は難儀した。思い出したくない事が多いが、今が最高の幸せと感じている。

EM さんから

戦後といえば、東京裁判の事を思い出す。

【塾会のあとがき】

　塾生みんなが辛い戦争の体験、見聞きした事を語ってくださいました。昭和 20 年の敗戦から 79 年間、平和な時代が続きました。明治 27 年(1894)日清戦争、日露戦争から昭和 20 年(1945)太平洋戦争まで 51 年間の戦争の時代が終わってその後 79 年間日本は戦争をしなかった。その利益、平和の配当は莫大なものだった。お陰で私たちは平和で豊かな落ち着いた暮らしが出来ている。

　これからも戦争しないように、平和を守るように、政府を、防衛省を監視していきたい。
憲法改正は必要ない。憲法解釈で戦争への行動を阻止し、戦争を回避出来る。今の「日米同盟、日米豪印同盟」の団結で日本を守ればよいと考えます。

　次回は9月第 2 木曜日(9月 12 日)です。

完

「シニアの風」

（順番制で行います。9月号は　八木　守さんですので準備の程、宜しくお願い致します。）

「中国語は難しい」　　塾生　吉田　喜義

毎週木曜日の午前中2時間公民館で「中国語会話」のサークルに参加している。会員は、女性4名、男性3名。講師は、週替わりで2名の講座が担当してくれる。講師は、二人とも日本人でご主人が中国の方です。おひとりは、中国性をもうひとかたは、日本性を名乗っておられる。

講座は、NHK の「まいにち中国語」のテキストを利用し、テキストについている CD をメインに講師が詳しく説明してくれ、講座の参加者は順次テキストを読み合わせる。ほかに教材として「陳淑梅氏のエッセイ集」、NHK の中国語のラジオニュースの聞き取り、中国語の歌も一緒に歌います。ちなみに、講座参加費は、月に二千円。お花見、忘年会などの費用は都度、臨時徴収します。

私が、中国語に接したのは現役時代台湾へ出張したとき。後に台湾の西側を縦断する台湾版新幹線の工事に参加し、台南に 4 年間住んだ。台湾の職場のエンジニア、事務系の女子連は皆大学卒業並みの学歴を持っているが、英語は個人差もあるがあまり堪能とは言えない。

工事事務所内では、日本語、英語、中国語が飛び交う。工事の発注者は台湾高速鉄道公司。ドキュメントは、すべて英語だが、仕様書は中国語版がある。この仕様書の厚さを比べると約半分。中国語の一語の語彙はそれだけたくさんの意味を持っている。

日本人が、中国語勉強する際、日本で使っている漢字の知識が邪魔をする。中国語でも台湾などで使われている繁体字と中国本土で使われてる簡体字表記がある。日本語の表記は、その中間的な漢字使いである。発音は、基本的に「北京語ベースの普通語」です。他に、広東語。上海語、ミンナン語などがあります。台湾の南の大都市高雄市を走る地下鉄内のアナウンスは、「普通語」、「台湾語（福建語に近い）」、「客家語（ハッカ）」のほか、メインの駅では、「英語」も追加される。

また、中国語の発音には、「四声」があり、これも厄介である。「四声」の使い分けで意味が全く違うものになる。有名な語句は、「妈妈骂马吗」。日本語の発音は、「マーマーマーマーマ」である。意味は、「お母さんは馬を叱りますか？」です。発音記号は、ピンインというローマ字表記システムで表されます。そのピンインに 4 種の声調記号が付くのです。妈は、第一声（平声）。骂は、第四声。马は、第三声。吗は、四声にない軽声で発音します。

この使い分けがなかなか難しい。しかし、中国語の学習は、この四声をきちんと発音できないと上達できない。日本語は、漢字を知っているだけに過去の知識・経験・音読みが邪魔をする。ある中国語の教師は、「漢字を知らない西洋人の方が、素直に発音が出来、上達も早いとか」

もう一つ日本人に厄介なのが、日本の人名、地名などの読み方である。日本では、ほとんどの人名、地名は漢字表記なため発音は、当然中国語読みとなる。「東京」は、dong jing（ドンヂン）。「大阪」は、da ban（ダーバン）。 この辺りは、何とか想像がつく。「埼玉」は、qi yu（チーユー）。「名古屋」は、ming gu wu（ミングーウー）となる。こうなるとお手上げ状態。

確かに、漢字は古代中国から日本に伝わり、日本語の表記体系として採用され、発音も音韻体系も違い、日本語は漢字の意味から読みを変える訓読みも考えられてきた。しかし、近代の観光やビジネスで文化交流が増え、国際的な標準か流れも現れてきているようです。観光地のガイドや地図の中には日本語読みが使われており、「京都」は、kyouto と表されたり、交通機関の案内にも日本語の発音に基づく表記が使われてきているようです。中国のメディァや教育機関でも日本の地名や人名を日本語の発音に近い形で紹介が増えているようです。是非、この流れが国際的に広がってほしい。

中国語は、母国語以外の地名、人名は現地で発音されたものを漢字に置き換えるのが主流ですが、必ずしもそうではないようです。アメリカ大統領「バイデン」は、拜登（Bai deng バイデン）。前大統領「トランプ」は、特朗普（Te lang pu ターランプ）。アメリカ民主党の時期大統領候補の「カマラ」は、卡马拉（Ka ma la カーマーラー）です。十分に聞き取れます。我々日本人も中国の習近平主席を「シユウキンペイ」と呼ばずに「Xi jin ping シージンピン」と発音することをお互いの国、国際社会のメディアへの啓発と語学教育をの国際標準化に向けて努力を続けてほしいと思います。

台南駐在中に台東市へ旅行した時の話です。事前にホテルの予約は事務所のスタッフにやってもらいました。数日後、私の携帯電話にホテルから直接電話があり、本人確認の後、「当日、到着列車の時間に合わせてホテルから迎えのものを準備します。そのものには、お名前を書いたプラカードを持たせます。お名前は、「ジーテンシェンション」で宜しいですね。」と丁寧な連絡がありました。旅行当日、台東駅に着いて私の出迎えの方を探しましたが、なかなか見つかりません。しばらく探すと、奥の方に「歓迎几点先生」のプラカードが見えました。吉田は、ピンインで「ji tian」 ジーティエン。プラカードは。「ji dian」 ジーディエン。意味は、「なん時？」。プラカードは、「ようこそ！　なん時さん」になっていました。中国語は難しい！！！！！！！

八木　守

８月下旬からスーパーに、おいしい果物が沢山出回ってきました。美味しい果物の見分け方もネットで見ると詳しく書かれており、いろいろ勉強になります。

私は桃と梨が大好きです。桃の香りと味はたまりません。梨もシャキッとした食感と水分が良いですね。皆さんはどんな果物が好きですか？　マスカット：美味しいけれど高いですね。・・・・・

立秋　りっしゅう（8/8～22 ごろ）

秋の気配が少しずつ感じられる頃。

涼風がそよぎ、ヒグラシが鳴きはじめ、秋のはじまりを演出してくれます。季節の挨拶が「残暑見舞い」に替わるのもこの時期ですね。

蝉の声があまり聞こえません。暑すぎるのでしょうか？

処暑　しょしょ（8/23～9/7 ごろ）

夏の暑さが和らぐ頃。

マツムシや鈴虫など心地よい虫の声が聞こえてきます。

稲穂が色づきはじめると同時に台風の季節も到来します。

本当に今年は台風の到来は早かったです。

まだまだ長袖、カーディガンを着用する季節にはなりませんが、9月下旬になれば、スポーツの季節、朝晩の散歩などが気持ち良く出来ると思います。

続く～